

「Facebook を活用しよう！」 ～リアルタイムに愛名やまゆり園から情報を発信しよう～

愛名やまゆり園 日中支援課
新実 和人
地域サービス課
城所 友里 井岡 陽一郎

1.はじめに

SNS の拡散性や即時性を活かし、愛名やまゆり園に関する情報を様々な方に広く速やかに発信して関心を持って頂くと共に、障がい福祉サービスに関するさらなるイメージアップを図るために、Facebook を活用した取り組みについて報告する。

いう。古くはブログや電子掲示板でもそうした機能の一部は実現できていたが、SNS では特に「情報の発信・共有・拡散」といった機能に重きを置いているのが特徴といえる。また、SNS は Social Networking Service (ソーシャル・ネットワーキング・サービス)の略で、ソーシャル(社会的な)ネットワーキング(繋がり)を提供するサービス、という意味になる。

2. Facebook について



Facebook(フェイスブック)は、世界で11億人以上のユーザーを抱えている最大規模のSNSである。日本でも2000万人以上のユーザーが利用している。Facebook は自己紹介(プロフィール)や日記を書いて、それに対してコメントをもらうという、世界標準のいわゆる元祖 SNS であるといえる。

3. SNS とは

インターネットを介して人間関係を構築できるスマホ・パソコン用の Web サービスの総称を、SNS と

4. Facebook ページについて



Facebook の使い方として、個人登録の「個人アカウント」のほか、企業や団体、芸能人、政治家などが自分自身をアピールするための、「Facebook ページ」がある。Facebook ページとは、以前は「ファンページ」と呼ばれていたものである。Facebook への登録は基本的に個人単位が原則となるが、Facebook ページでは企業やサービスなどのページを作成して、紹介やプロモーションを行うことができる。

愛名やまゆり園のアカウントは、Facebook ページを利用している。

5. Facebook ページのメリット

平成 29 年度 職員研究活動援助事業④

- (1) 本名以外で登録可能(企業名や商品、サービス名などでも OK)。
- (2) Facebook ページの「いいね！」を押してくれた人は、友達ではなく「ファン」として扱われる。
- (3) ファンの人数は無制限。
- (4) 他の人の個人ページに書き込みはできないが、自分の Facebook ページに投稿された書き込みに対して、返信コメントを書くことはできる。
- (5) 他の人の Facebook ページに書き込みができる。
- (6) インサイト(アクセス数やいいね！数を調べる機能)が使える。
- (7) Facebook にログインしていない人でも閲覧できる。

6. 始めるにあたっての準備



(1) 運用ルールの策定

以下に策定した運用ルールを一部抜粋する。

【目的】

平成 29 年度研究活動援助事業として SNS のフェイスブックの拡散性や即時性を活かし、愛名やまゆり園に関する情報を様々な方に広く速やかに発信し、愛名やまゆり園に関心を持って頂くと共に、障がい福祉サービスに関するさらなるイメージアップを図ります。

【掲載事項】

愛名やまゆり園に関するイベント等
施設利用者については、個人と特定できない

よう配慮します。

投稿する写真等については、決裁等を行わず、複数の職員で確認後、投稿します。

【アカウント情報等】

ソーシャルメディアサービス: FaceBook
アカウント名: 愛名やまゆり園 FaceBook

運用については、専用の端末を使用し、また、専用のネット回線を利用します。

【ページの運営者】

愛名やまゆり園平成 29 年度研究活動援助事業プロジェクト メンバー(新実、城所、井岡)

【投稿者】

愛名やまゆり園平成 29 年度研究活動援助事業プロジェクト メンバー(新実、城所、井岡) と園長、部長

【コメントへ返信】

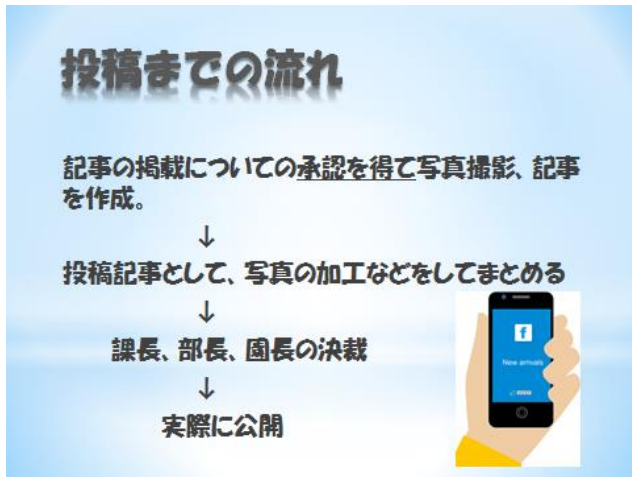
返信は、基本的にお答えしません。但し、問合せ的なコメントについては、メッセージャーを使い返答します。イベント開催等のお知らせなどは回答致します。

6. 実際の運営

実際の運営では、以下のようなことを行った。

- (1) 写真の撮影や記事の作成
- (2) 記事の決裁後の掲載記事などに対するメールへの対応
- (3) 愛名やまゆり園ホームページとのリンク
- (4) QRコードの作成、掲示
- (5) 職員の名刺への QRコードのプリント

7. 投稿までの流れ



8. 実際の記事掲載までの流れ

Facebook ページへの投稿記事を書き、写真などを選び、加工などを施して投稿記事案を作成する。課長、部長、園長の決裁を取り、その後に公開の手続きをとる。

9. 日々の投稿

Facebook ページ立ち上げから 100 以上の記事を投稿してきた。施設の行事やイベントだけでなく、研修のお知らせや日々の食事のメニューなど様々な物を投稿した。



Facebook ページへのアクセスに関しては、投稿数は、100 を超えている。フォロワー数も 60 越えとなっている。リーチ数は、31 に留まった。

ページへのアクセス



- ・投稿数 **100** (平成30年5月17日まで)
- ・現在フォロワー数 **60** (平成30年 月 日現在)
- ・平均リーチ数 **31** (平成29年9月20日～平成30年4月30日)

10. 人気投稿ランキング

ここまでの投稿の中でアクセス数が多い記事の第 1 位から 3 位までは、以下のようになっている。

第 3 位

「あいなまつりの予告」



第 2 位

「阿部美樹雄さんのフロー理論」の研修案内



第 1 位

「山田由美子さんぶれない自分作り」研修の様子



□ 番外編

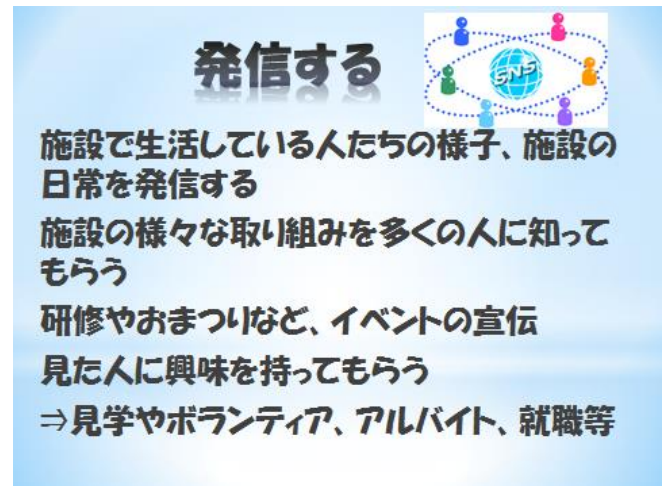
「祝寿の宴のお祝いメニュー」としての食事の写真や寮内でのボーリング大会の様子などの身近な記事は、多くのアクセスがあった。




11. 投稿の結果

100 以上の投稿の結果、1 投稿あたり平均の「いいね」数は、9 だった。「いいね」数が、一桁に留まった原因として、イベントなどの記事は事後報告の内容では情報の新鮮さがなかったり、写真やコメント、ハッシュタグによる見せ方に工夫が必要だと思われる。

数値的には、期待していたものではなかったが、Facebook ページ運営にあたり、SNS の話題で、他の事業所や他法人の方々などとのつながりを作ることができた。





*つながる

Facebookで他法人を始め、様々な人や関係者とのつながりを作る
Facebookを通じて情報交換
名刺交換の時など、話題のきっかけ作りも…
(職員の名刺にQRコードをつけた)

Facebook ページの投稿記事については、施設の様々な取り組みを多くの人に知ってもらうことを目的として、施設内の生活などの日常生活の様子を発信した。また、研修やお祭など、イベントの宣伝を見た人が興味をもってもらうような記事作りを行い、見学やボランティア、アルバイト、就職などに繋げた。

投稿記事の公開までのスピードがアクセスに影響する。また、利用者さんの様子が分かる内容であること、定期的に記事が更新されることが、アクセス数や「いいね」数が増えることにつながると思われる。

1年間通して 投稿に内容に対する傾向

- ・投稿までスピードがアクセスに影響する。
- ・利用者の様子が分かる投稿内容
- ・定期的に記事の投稿がないとアクセス数は減少の傾向にある。
- ・投稿を継続していくことが難しい。

12. 今後の取り組み

研究援助事業終了後は、地域サービス課が中心となり、施設から情報発信の手続きを行う。

継続的に投稿を行っていき、施設の様子をもっと知ってもらう。また、動画の投稿や施設のコーマ

シャルなどもつくり、関心を持って頂くための工夫をしていく。動画の投稿や愛名やまゆり園の CM づくりなども行っていきたい。また、施設機能を地域で活用してもらうための情報を発信していきたい。

今後の展開

・平成30年度は、地域サービス課が中心となり、施設からの情報発信として、本格的に取り組み始めました。

○今後の取り組みとして…○

- ・継続的に投稿し、施設の様子をもっと知ってもらう
- ・動画の投稿、愛名やまゆり園のCMづくり
- ・施設機能を地域で活用してもらうための情報発信